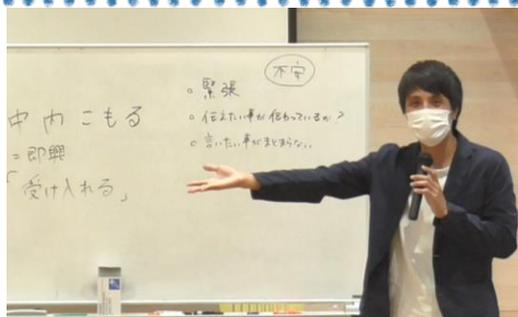




プレゼン能力向上研修

8月2日(火)に、いのホールでプレゼン能力向上研修を行いました。俳優の中内こもるさんを講師にお招きし、教員に必要な不可欠なコミュニケーション力や、即興力などを高めるために行いました。保小中の先生方と委員会事務局を合わせ17名の参加がありました。



(「稽古場は失敗して良い場所です」と語る中内さん)

プレゼンをする時、緊張でガチガチになってしまったり、言いたいことがまもらなかったりした経験がありますよね？今回の研修は、演劇の稽古でも行われる「シアターゲーム」を使って、そのような悩みを軽くするというものでした。プレゼン上達の仕方に正解はないので、「こうすれば絶対にうまくいく」というものではありませんが、大きなヒントになったことは間違いのない研修でした。

①即興劇

「こらっ！」と言われた人は「はあ？」と返します。次々と言う人を交代して続けます。

同じように「大好き」と言われた人は「ありがとう」と返します。



- 無表情で話すのではなく、言葉に感情を乗せて話しましょう。言葉によって場の雰囲気が重くなったり、柔らかくなったりすることも感じられます。

②ゾンビゲーム

ゾンビ(鬼)に選ばれた人は、声を出さずアイコンタクトだけで他の人に助けを求めます。アイコンタクトを受け取った人は、助けを求めている人の名前を呼べば、ゾンビから助けることができます。ゾンビにタッチされると、ゾンビ役は交代します。



- アイコンタクトは重要です。プレゼン時に「あなたに喋っていますよ」と、聞き手を均等に見て話しましょう。
- 聞こえる声を出しましょう。「聞き手に伝える=声を届ける」

③ジップ・ザップ

「ジップ」と言うと隣の人にエネルギーを送れます。遠くの人に送るには「ザップ」と言います。テンポよくエネルギーを送ります。

Points

- どんどん間違っ、失敗しましょう。稽古場は、失敗してもいいところです。失敗をたくさんすることで、それを受け入れられるようになります。

④つなげて昔話

創作昔話を5人で作るゲームです。一人目は「昔々…」と始め、適当なところで次の人に交代し、話をつなげていきます。5人で、教訓まで盛り込んだ一つの昔話を作ります。

Points

- 自分の思い通りにならないことを受け入れて、次につなげていきましょう。
- 高い声より落ち着いた声がいいとか、あえて強調したいところはゆっくり話すとか、伝わりやすい話し方を考えるきっかけになります。

⑤即興!他己紹介

「自分を表す漢字」を書きます。それを隣の人と交換します。隣の人を書いた漢字を見て、即興でその人の紹介をします。(1分)もちろんウソでもかまいません。



Points

- 「…と思います」ではなく「…です」と言い切ってしまうでしょう。
- 正解はありません。ウソでもいいですから、自信をもって伝えましょう。

参加者の感想(抜粋)

- 緊張や失敗、人や自分を受け入れることがプレゼン能力の向上に欠かせないものだと分かりました。
- 楽しいシアターゲームを通して自然に重要なことを学ぶことができました。自分のためではなく、聞いている相手をどんな気持ちにさせたいかという言葉をしっかり踏まえたいです。

講師からのメッセージ

研修内でも触れましたが、大人も子どもも「自分らしく、ありのまま」という生き方が難しい世の中になっていると思います。演劇のワークにはそんな状況から「自由になる」「少し生きやすくなる」可能性が詰まっています。ぜひこれからも多くの方に経験をして欲しいという気持ちになりました。「表現する」事の「楽しさ」を知って頂きたいです。

研究所より

プレゼン能力向上研修は、今年度初めて開催しました。教師のパフォーマンス力の大切さは、近年注目されつつあります。今回の研修では、ただ技術を身に付けるのではなく、表現するための心や体を作ることの大切さを学びました。研修後のアンケートでは、参加者の満足度は100%でした。また、今回のような先生方にとって有意義な研修を企画したいと思っております。

いの町教育研究所

TEL;088-893-1922(いの町教育委員会内) 088-893-0255(資料センター)